

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣 良次

2025. 7
No.383

イナテック版 私の履歴書 No. 3

小学生から中学生にかけて

帝王学を学ぶ

当時を振り返ると、父(邦松氏)はよくお客様の接待の場に私を連れて行ってくれました。料亭の座敷では、お酌や下座上座といった席次などの作法を手伝わされました。もちろんそこには芸者さんいらつしやつて、私はその場で彼女たちから料亭での作法や立ち居振る舞いなど、さまざまなルール教えていただきました。

なぜ私を接待の場に連れていったか、父から聞くことはありませんでした。しかし今になつて思えば、父は手っ取り早く商談をまとめ、息子(私)がいることを理由にその場を早く切り上げるのが目的だったのではないかと思っています。

当時の父の様子を考えると、おそらく帰宅後も現場に向いて、旋盤を動かす仕事をしていたと思います。それだけのことをしなければ、住み込みの工員さんや私たち家族を食へさせていくことなど到底できませんでした。その努力があつたからこそ、今があるのだと確信しています。

父が商談をしている間は、てるねえさんやまりこさんといった芸者の方々に遊んでもらっていました。私にとって料亭での芸者さんとの時間は、まさに帝王学を学ぶ場でした。高校から大学に上がる頃、「スナック」といわれる店が始めました。しかし、私は変わらず料亭の二階で過ごすことがほとんどで、今思えば、父は大変貴重な体験を私にさせてくれたと思っています。その経験が、後継

者としての自覚が芽生える原点となつたのだらうと思う次第です。

中学時代、部活で学んだこと

中畑町、平坂町、楠村町と各地域から生徒が集まる平坂中学校に入学しました。

勉強よりも身体を動かすことが大好きだった私は、テニス部に入部しました。1年生の間はボール拾いと素振りが中心で、2年生になつてようやく練習が許される、そんな厳しい世界でした。

私はダブルスの前衛を務め、中根君などとペアを組むことが多く、いつも楽しませていただきました。

指導してくださった加藤先生は大変厳しい方でした。夕刻、あたりが暗くなつた頃からだんだん熱が入り先生がトスを出してくれるのですが「先生、暗くて見えません」と言うと、「バカ者、走ってみないとボールに追いつけるか分からんだらう。走る前から諦めるな」と大声で叱りつけられました。そして私がうろう

ろしていると、「たわけ、ボールが見えなくても、音を聞いて走れ！」と一喝されました。

不思議なことに、集中しているとだんだんボールに身体が反応できるようになり、全力で走って追いかければ、相手コートに返せなくともボールに触れるまでになったのです。

加藤先生からは、「ほら見ろ、やつてもみないのに、最初から『できません』、『もうだめです』なんてこと言うんじゃない。何事も挑戦することが大事なんや」と教えていただき、その教えは今の私の信念や行動訓になっていると思っています。

そこまで鍛えてくださった加藤先生には、心から感謝申し上げます。

高校受験

私にも高校受験がありました。

両親は私が西尾高校に入学することを望んでいましたが、それが難しいと分かると、先生に頼み込んで（昔は許されたことですが）先生のご自宅で特訓を受けました。しかし、元来勉強が好きでなかった私は、一色高校を受験し合格したのです。両親はさぞ落胆したことだろうと、この頃つくづく感じています。どちらかといえば、先輩についていつて喧嘩に参加するほうが面白いと感じる年頃でした。

菜根譚後集

一一四

小處不滲漏、暗中不欺隱、末路不怠荒。纔是個真正英雄。

小事だからとて手ぬかりするようなことはなく、人が見ていないからとて欺きかくすことではなく、落ちめだからとて投げやりになることはない。このようであってこそ、初めてひとかどの人物である。



社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 8
No.384

「発信型三方よし」

「三方よし」とは、近江商人の経営哲学の一つで、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方すべてが満足する状態を指します。これは、単に売り手と買い手の利益を追求するだけでなく、社会全体にも貢献できるような商売こそが良い商売であるという考え方です。

(A I による概要)

「陰徳の美」

「陰徳の美」とは、人知れず良い行いをすること、またはそのような行いを通じて

得られる内面的な美しきのことです。江戸時代の粋な文化に由来し、人目に触れない所に美を追求する考え方を指します。

(A I による概要)

今は、世代の違いで「分かる人には分かる」といった空気を読むような方法は通用しない。ましてやグローバルには通用しない。何より、発信しないと相手に気づきを与えられず、イノベーションにつながらないことが課題なのである。そこで、三方よしを補正して、「発信性」を加えるべきと考え、筆者は、世界標準でのSDGs活用の「発信型三方よし」を提唱してきた。

『月刊三方よし経営'25年7月号』より

イナテックには、このような「陰徳の美」という考え方が今も存在しています。ややもすると、ちよつとしたコミュニケーション不足が原

因で、お互いが善意で行ったことにも気づかず誤解を生んでしまい、それがトラブルにつながることも少なくないかもしれません。

「陰徳の美」は日本の素晴らしい「徳」の一つです。しかし、DXや生成AIが急速に発達、発展する現代では、自らの行いを発信することを忘れてはいけないと痛感しています。

気をつけなければならないのは、「フェイクニュース」や匿名で無責任な情報が飛び交うSNS等に安易に反応しないことです。情報の真偽を判断できる能力と、その判断をするための正確な情報を持つことが大変重要だと考えております。

イナテックグループも、『発信型陰徳の美』を励行し、風通しの良い職場づくりに取り組んでください。

宜しく申し上げます。

高校時代

軟式テニスからの衝撃とサッカーへの決意

中学までは、テニスといえば軟式が当たり前で、世界中でこのテニス(軟式)が行われているとばかり思っていました。ところが、何かの情報で「軟式テニス」が日本とアジアの一部でしか通用しないと知り、愕然とした時がありました。

その時、「よし、高校に入ったら国際的に通用するサッカーをしよう」と心に決めました。私の母校である一色高校には、当時グラウンドが2面あり、サッカーゴールも設置されていました。

ところが、いざ入学してみると肝心のサッカー部がありませんでした。サッカーを目指していただけない、これにはショックを受けました。

入学して間もない頃、突然見知らぬ上級生が教室に入ってきて教卓に立ち、『稲垣良次はいるか!』と大声で私の名前を呼びまし

た。そして私は無理やり軟式テニス部に入部することになったのです。その先輩は竹内さんという方で、後輩思いの非常に優しい方でした。

私が入部するやいなや、先輩たちは「一色高校のコートは水はけが非常に悪い。だから耕して土の入替をするんだ」と、どえらい(とんでもない)ことを言い出しました。そして一年生のうち半年間は、土起こしに明け暮れることになってしまいました。

サッカー部を目指していたのに、まさかテニスコートづくりをするとは思わず、呆然としました。しかし、運がいいのか悪いのか、その経験が結果的にチームづくりにはとても良かったのです。おかげで西三河大会まで進むことができ、一応は格好がつかえました。

物分りの良い父、邦松の寛大さ

16才になり、『原付免許』がとれる年齢になった私は、早速免許を取り、学校に内緒でスーパーカブを買ってもらいました。しかし納

車当日、下りカーブを曲がり切れず田んぼに突っ込んでしまい、買ってもらったばかりの中古のスーパーカブは廃車になりました。その事故で顔面を強打したのか、前歯2本の神経がだめになってしまいました。結局その2本を抜くことになり、今もブリッジで、この歯とは一生の付き合いになりました。

それでも懲りなかった私は、バイク好きな住み込みの工員さんが当時乗っていた「ホンダCB750(ナナハン)」のカッコよさに惹かれ、大型バイクの免許が欲しいと思うようになりました。そして、3回も失敗しながら何とか免許を取得しました。

高校受験や期末テストの勉強にこのくらいの熱意で取り組んでいたなら、もっと良い学校へ進学できたのではないかと考える次第です。何分、やはり勉強が好きでなかった証拠なにかんであると痛感しております。

バイクのことについては、父(邦松氏)自身も好きな方なので認めてくれていました。父も創業当初はホンダドリーム号にリヤカーを

取り付け、機械の買い付けや納品をしていた
そうです。まさに、ホンダドリーム号が創業
の原点でした。

その単車に息子である私が挑戦すること
が、父は嬉しかったのかもしれない。いや、
もしかしたら「親バカ」そのものだったよう
にも思います。

そのこともあって、「ナナハン」はムリでも
S L 3 5 0 なら、とダメ元で親父に頼ん
でみたら、なんとすぐに買ってくれたのです。
私は調子に乗って、よせばいいのに、遅刻寸前
になるとそのS L 3 5 0 につて通学す
るようになりました。もちろん、それは校則
違反でした。

よりにもよって、50 ccのバイクに乗っていた
先生を追い越してしまいました。もちろん結
果は『保護者召喚』でした。自宅謹慎処分と
なり、親父も当時の校長であった山口先生に
平謝りかと思いきや、なんとその場で意気投
合し、稲垣鉄工所への生徒の就職斡旋の話
をしていたようです。

やはり父も、「転んでもタダでは起きない」
逞しさがあつたのだと思います。そんな出来
事も、私にとっては(勝手ながら)後継者とし
ての勉強だったのかもしれない。

勉強よりもお祭りやパチンコなど…。『当
時だから許される』本当にムチャクチャな高
校時代でした。

茶根譚後集

一一五

千金難結一時之歡、一飯竟致終身之感。蓋愛重反爲仇、薄極翻成喜也。

大金を与えても、その場かぎりの喜びも得られないこともあり、(反対に)、ほんのわずかな恵
みも、案外、一生の恩を感じることもある。思うに、愛情も重すぎると、かえって仇となること
があり、それがきわめて薄くても、かえって時には喜ばれることもあるものである。



社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 9
No.385

イナテック版 私の履歴書 No. 5

大学受験と不思議な縁

高校生活も3年生になると、いよいよ受験勉強が本格的に始まりました。塾にも通い、西尾の街中にあるユーキ塾という、厳しい先生のもとで指導を受けました。

その塾には、当時、一緒に通っていた知人がいました。数年後、その方がイナテックで英会話を教えてくれたアメリカ人の先生と夫婦だと分かり、驚きました。勉強が苦手な者同士、類は友を呼ぶということだったのかもしれません。さらに不思議なことに、その

方のご長男が、現在西尾市議会議員としてご活躍されています。縁というのは不思議なものです。

さて、大学受験ですが、私は近畿大学、京大、東洋大学、駒澤大学、高崎経済大学など、西日本から東日本まで、計6校を受験することにしました。どこかには引っかけた何とかなるだろうと、あまり深く考えていなかったように思います。

当時の日本の大学受験は、西から東へと日程が組まれていて、私の場合は近畿大学から受験が始まりました。なんとか合格したくて、近畿大学の中でも、限りなく文系に近い理工学部経営工学科を受験しました。

実は、受験校は東京か大阪で下宿生活がしてみたいという理由で選んでいました。いずれ稲垣鉄工所を継ぎ、一生を愛知で過ごすことになるなら、せめて大学時代だけでも東京か大阪の空気を吸い、都会の生活を経験したかったのです。

近畿大学の受験では、今のようなホテルではなく、さびれた旅館に泊まりました。周りには高校生にもかわらず、タバコを吸っている学生がたくさんいました。

なんとか風邪を引くこともなく、試験を終えることができましたが、解けた問題はごくわずかでした。当時、「試験直後に『不合格だ』と言う人は、解けなかった問題がはつきり分かっているからで、数問しか解けていないよな人は『まあまあだった』と言うものだ」と言われていました。私は間違いなく後者で、内心諦めていました。

まさかの合格通知

ところが、中部地区の試験が始まる直前に、『まさかの合格通知』が届きました。

私は経験のために中京大学の受験もしましたが、すでに気持ちはうわの空でした。進路が早く決まると、こんなにも気が楽になるものかと神様に感謝しました。

質素な下宿生活

大学生活は、東大阪の八尾で下宿を始めました。家賃は月8千円くらいで、大家さんの家の二階に住んでいました。部屋は障子一枚で仕切られた四畳半でした。廊下にある水道以外は、冷蔵庫も洗濯機もテレビもなく、あるのはラジオだけという質素な部屋でした。しかしこれが当たり前と思っていたので、特に不満はありませんでした。

「理工学部」は、文系と違って実技や研究に迫られることになると言われていたので、アルバイトはせず、自慢に聞こえるかもしれませんが、出席だけは欠かさずしていました。

羽石ゼミでの学友との出会い

3年生になると、ゼミに入ることが必須で、私は羽石ゼミを希望しました。当時まだ助手だった羽石先生は、私達より6歳ほど年上でご結婚されたばかりの、まるで先輩のような存在でした。

羽石ゼミの仲間と打ち解けて話が出来るようになって、入学試験の話になりました。そこで、私以外にも補欠入学者が何人もいたことを知りました。

大学生活は、これまでの人生で最も勉強や研究に打ち込んだ、充実した時間でした。羽石ゼミで過ごした日々は、忘れられない思い出です。

【羽石寛寿先生プロフィール】

1946年生まれ、摂南大学名誉教授・元経営学部長。専門は経営工学、経営管理、経営情報学、社会システム工学など。

1968年、大阪工業大学工学部工業経営学科を卒業。近畿大学理工学部経営学で教鞭を執り、40年以上にわたり同大学の研究・育成に貢献。経営学部長、学生部長などを歴任。2016年、摂南大学を退官、名誉教授に。

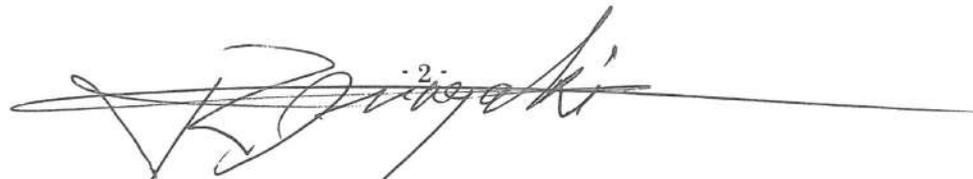
(出典・ウィキペディア/AIによる要約)

菜根譚後集

一一六

藏巧於拙、用晦而明、寓清於濁、以屈爲伸。眞涉世之一壺、藏身之三窟也。

非凡な才能を内にかくして拙いようにふるまい、すぐれた知恵をくらしながらも明察することを失わない。清節を守りながらも俗流に身をまかせ、身をかがめるのはやがて身を伸ばさるためである。このような態度が、眞に世間の海を渡る上での貴い浮き袋であり、わが身を安全に保つ隠し場所である。



社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 10
No.386

前田君からの手紙

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次様

の部屋を訪れた人たちが自由に書き込んだ
ものです。

全3冊、約120ページに及ぶこのノ
ートの最後の日付は、大学4年生の19
74年11月4日でした。

私たちが近畿大学の仲間が何を考え、私が
当時どんなことを思っていたのか、その青春の
1ページを、恥を承知で紹介します。(仲間
の名誉のため、私の文章と羽石寛寿先生のコ
メントを掲載させていただきます。)

イナテック版 私の履歴書 No. 6

プレハブ小屋での下宿生活

近畿大学の同級生で仲の良かった、前田昌
秋さん(のちに大和ハウスに就職、202
4年2月ガンのため逝去)が住んでいたアパ
ートの4階屋上にあるプレハブ小屋に空き
部屋があるということと、私はそこで新たな
下宿生活を始めることになりました。

私の手元に、『伝言ノート「駅発」』のコピ
ーがあります。これは、2020年に、前
田君が大切に持っていたノートを全ページコ
ピーして私にプレゼントしてくれたものです。

先日、断捨離を決意し物を整理していた
ら、我々の一番楽しく希望と夢の記録のノ
ート【駅発】伝言ノートが見つかりました。
早速コピーしましたので、時間がある時に
タイムトラベルしてください。但しGO
TOトラベルの適用にはなりませんわ。
仕事も離れて、【駅発】片手に飲みなが
ら青春時代を思い出し時代を振り返りた
いですね。

尚、【駅発】は非売品です。

令和2年9月7日 前田昌秋

この伝言ノートは、大学2年生だった1
972年11月6日から始まり、前田君

伝言ノート「駅発」

「このノートは、酒飲みスケベ野郎の、しか
も女にもてない者への伝言ノートとする。」

1972年11月6日 PM 9時10分
前田・稲垣書

1972年11月6日

PM 9時10分 良次

前田の新宅は実にすばらしい。しいて言え

ばカベがカベでないことと、売店が近くにないことと、四階であるということと、テレビがないことと、駅から遠いということが少しナニであるナ。

第1日目の夜がオレといつしよなんてさえない奴…。

人間本来の姿、俺にも何か一つナニか見えような気がする。それはまたわからないが、ナニかが見えて来たような気がする。

1973年5月22日

AM 12時55分 良次

塩谷に送る言葉。

「接吻とは、そもそも何でしょう？顔と顔を打ち寄せて解けじと結ぶ誓です。忘

れぬ為の約束です。恋という字の上に打つさきやかな紅の一点です。」

『シラノ・ド・ベルジュラック』より

しっかりと受け取ってくれ。何も考えずに、深く追求せずに。

しかし俺は何も出来ないんだ。今日の新聞に大辻司朗が自殺したと書いてあった。彼もきつとそんな運命にあったのだろう。

「死ぬ」ってどんな気持ちだろうな。恋をした時のように、ふあふあと気持ち良くなるのではないかな。(タバコをふみやがったな、塩谷を告訴する。)

一度死んでもいいな。次に生まれて来る時にはロウソクにでも生まれて来たいな。そんなのが好きなんだな。そんな俺になりたい。俺なんてどうなつてもいいんだ。

苦しみをぬいての自殺なんてつまらない！逃避ではないか。みんな豊かな豊かな気持ちで死のうではないか。苦しいから死ぬなんてヒキヨウだ。それならば生きるべきだ。

俺はヒマなんだな、こんな事を考えるなんて！こんな事でもいいのか。いつその事死んじまえばいいんだよ。こんな俺なんか、世の中、自

分のためにもクソの役にも立たないよ。そうなんだ。死んでしまえばいいんだ。

結論、私は今、みんなにせめられたのであります。ようするに私は死ぬことが出来ないのです。それだけの勇気がないのです。それだけ私はダランがないのです。そんなに卑下することはないのでしょいか？

1973年5月28日

AM 11時35分(くもり) 良次

この真新しいノートにはいろいろな因縁があつたけど、結局3冊目になった(少し日本語としておかしい)。前田が無関心無感動と書いてあつたけど、俺はその時その時点で、何事に関しても何かを期待していた。そこに自分にとつての何かがある…と思う。

大きい目で見れば、人生たった60年しかない。年表でみても60年なんて0.1ミリもないぜ。しかし長い目で見れば、今まで生きて来た後4倍。人生の半分にもまだ来ていないんだぜ。

1973年5月(日付不明) 良次

貧乏人の写真が新聞に出るのは、
犯罪を犯したときに限られる。

マクシム・ゴーリキー

(19～20世紀ロシアの小説家・劇作家)

貧乏は恥ではない。

しかしひどく不便なものだ。

シドニー・スミス

(18～19世紀イギリスの軍人・詩人)

富は海水に似ている。

飲めば飲むほどのどが渇く。

シヨーベンハウアー

(19世紀ドイツの哲学者・作家)

貧乏人があまり貧乏になりすぎ、

金持ちがあまり金持ちになりすぎると、

貧乏人はどうすればいいかを知っている。

パール・バック

(20世紀アメリカの小説家)

オレたちは何をしたらいいのか。

1973年6月4日

P M 6時0分(くもり) 良次

俺は古い側面を持っているのかな。現代っ子には持っていない…。だからダメなのかもしれない。

レーサーにあこがれ、年上の人にあこがれ、金持ちにあこがれる。そんなカッコよさにあこがれるんだな、今の奴は。俺はそんな面を全然持っていない。金もない、車もない、服装も悪い、背もひくい、顔も…。なにもとりえのない男、それがこの俺なのか。

主体性がなく、自分の思ったことも出来ず、目標もなく、ただ入れて出しているだけ、ただそれだけの人間なんだ。教えてくれ。奴がかわっているのか、俺がかわっているのか。やはり俺がつまらない人間だから…。ぐうたら人間にもなれないんだ。ぐうたら人間になることとの出来る奴は立派だよ、本当に。ぐうたら人間にもなれず、すぐれた人間にもなれず、かといって平凡な人間になれればいいが、平凡な人間なんて難しくてやれやしない。俺は平凡な人間にもおよばないんだよ。どうす

ればいい、この人間。誰かどうかしてくれよ、この人間を。殺すなり、煮るなり、焼くなり、どうせこんな奴をどうしても、くその役に立たないがな。

こんな人間でも生きる権利はあるか。生きる権利は国が保証してるなんて本当か？そんな国政でいいのか。生きてる喜びが知りたい。生きてる証拠が知りたい。生きてることが知りたい。わからないんだよ。実に無気力無関心。実につまらない人間。愛、恋、女、男、酒、学校、大衆、何もかもがつまらないさ。何が愛だよ。

1973年6月17日

A M 11時0分 良次

父上、母上、私がここに存在するのもみなあなたたちのお陰です。あらためて感謝いたします。

我々にはなぜCコースだけ苦しまなければならぬのか、それが問題だ。外国にも行きたいし、車も欲しいし、人間なんて欲望のかたまりでしょうか。みにくいですね。飢えたオオカミのようで好きではないですね。みぐるしいですね。性欲が減少すれば人口増加もとまるし、食欲が減れば食料危機も遠くなる。飢えたオオカミすてきですね。あの目が好きです。あの目には何かがある。

1973年9月22日(土)

PM 1時30分(くもり時々雨) 良次

最近、皆ここに寄つてから帰るが、どのようなものであろうか？私には理解できかねる。皆さようなら、こんな世の中。

人生たつたあと50年。こんなに生きてもしかたがない。車を乗り廻したり、女をおいかけてみたり、つまらぬではないか。実に実にむ

なしい。もつと一人間が生きるということについて追求しなければ……。だからメシを食べているだけなら死のうよ、皆！皆んなはどうでもいいんだ。でも皆も考えてくれよ。お金をもうけて地位と名誉を勝ちとるか、こんなことはクソの役にも立たないと俺は思う。そんなものではなくて、生きるための目的、生きるためのささえが欲しいんだ。しかし、死ぬるほど俺は強い人間ではない。また、生きていてもどうにもならない人間だ。こんな人間は交通事故で死んで慰謝料でも残すしか、のこされた道はないのでしょうか？！

菜根譚後集

一一七

衰頹的景象、就在盛満中、發生的機械、即在零落内。故君子居安、宜操一心以慮患、處變、當堅百忍以圖成。

ものごとの衰えるきざしは、最も盛んで隆々たるときすぐにもう始まり、新しい芽生えのはたらきは、葉の落ち尽くしたとき早速に起きているのである。そこで君子たるものは、無事平安なときには、本心を堅く守り通して他日の患難に備えるべきであり、また異変に対処したときには、あらゆる忍耐を重ねてあくまでも成功することを図るべきである。

羽石先生からのメッセージ

昌秋の若々しい男ぐさくしいベッドでペンを取った。昌秋のグループがうらやましい！このノートを読ましてもらった。アルバムも見せて頂いた。…若さがあった。友情があった。そして心が見えた…。有難う。

1974年9月24日 寛寿



Handwritten signature of Hironobu Arakawa

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 11
No.387

『自主性ではなく主体性を育てる』

(月刊『致知』9月号)

教育アドバイザー 工藤勇一氏

生徒たちに自分の力で生きていく力を養ってほしい。

主体性と自主性。この二つの言葉を同じ意味だと勘違いしている人も多いですが、実は違います。自主性とは、自ら進んで行動すること。日本の学校が育てようとしてきた力であり、先生や保護者、組織が期待することを自ら進んでやる子どもを育ててきました。

一方の主体性は自分の頭で考え、判断し、行動することです。これこそ、いまの時代に求められる力に他なりません。子どもたち自身が小さな自己決定を繰り返してい

くことで、「生きる力」が養われていくと私は信じています。

これは、世間においても、イナテックにおいても、非常に重要なことだと考えております。

今、生成AIが急速に発達し、SNSを通じて誰もが無責任に情報を発信できる時代になりました。しかし、生成AIが導き出す回答は、あくまでも過去のデータから算出された「最適らしきもの」であり「本当の答え」ではないかもしれません。倫理観や道徳観は国によつてまちまちですし、個人によつても異なります。その中で、生成AIがどのような情報を集め、回答を提示しているかは分かりません。

だからこそ、工藤勇一氏の言われる『自分の力で生きていく力』を養ってほしいという言葉に、私は深く共感いたします。

イナテックでは、課長職以上の皆さまによる「企業理念を共に学ぶ会」を立ち上げ、議論を重ねてきました。これは、企業理念を

オーナーと社員が共に深く考え、実践へと繋げるための取り組みです。企業理念が文化として根付いた会社を、共に創り上げる(共創)ことを目指しています。

その礎となるのは、次の二つの考え方です。

- 「自分の頭で深く考える」
- ・本質を捉える
- ・仮説と検証を繰り返す
- ・自分の言動に責任を持つ

「人として正しい考え方」

- 一、嘘をついてはいけない
- 二、人に迷惑をかけてはいけない
- 三、正直であれ
- 四、欲張つてはいけない
- 五、自分のことばかり考えてはならない

(稲盛和夫『成功と失敗の法則』より)

工藤氏の言われる、『自分の頭で考え、判断し、行動すること』を実行するにも、この「考える基礎」が大切であり、それに基づいて「判断する力」が不可欠です。

現代は、「何でもあり」という風潮が広がる世の中です。だからこそ、人類として、地球に生きる一員として、何が正しいかを考え、行動できるイナテック社員を増やしていく必要があります。こうした取り組みが社員一人ひとりの成長の「一助」となれば、イナテックの企業理念である『社会に貢献』の実現により近づくと思っております。

工藤先生、ありがとうございます。そして、致知出版社様へ感謝。

イナテック版 私の履歴書 No. 7

仕送り暮らしの大学生活

前回の『伝言ノート「駅発」』の内容から、だいたいご想像いただけるかと思いますが、私は仕送りの資金のみで毎日を過ごすという厳しい生活を送っていました。そんな中でも、あまりダサい服装は避けたいと、当時流行していた「アイビールック」にとりあえずこだわっていたのです。

(アイビールック：1950年代から1960年代にかけて、アメリカの名門大学

アイビリーグの学生たちによって生まれ、清潔感と知的さを兼ね備えた上品なファッションとして確立されたスタイル。)

仕送りのお金しかない中で服や靴を買い揃え、その恰好で「大阪ミナミ」の安い居酒屋やスナックに遊びに行くわけですから、まさに貧乏の極みでした。当時の仲間も皆、下宿生活をしており、少ない仕送りで生活をやりくりしていたのです。

そんな私たちですが、羽石先生のお陰で、何とか近畿大学理工学部経営工学科を卒業することができました。

就職活動の結果

就職活動が本格化し、仲間は大和ハウス工業、滝澤鉄工所(現TAKISAWA A)、工具商社、自営と順調に進路を決めて

菜根譚後集

一一八

驚奇喜異者、無遠大之識、苦節獨行者、非恒久之操。

珍しいものに感服したり、変わったことを喜ぶような人は、(けっきょく浅薄であって)、遠大な見識を持っていない。また、度を過ぎて節操を立て、世にそむいて独行するような人は、(けっきょく常道ではないので)、長続きする操守ではない。

いく中、私はオービックや豊和工業の入社試験を受ける機会をいただきました。

もし私がオービックに入社していたならば、今のイナテックはIT産業や生成AI企業として発展していたかもしれません。しかし、現実やはり現実です。

また、豊和工業さんは、昔から日本の機関産業の一つであるマザーマシン製作や軍需・防衛産業が中心の鉄工会社でした(現在も同様ですが)。

面接では、「稲垣さんは将来、お父さんの会社を継ぐのですか。当社は腰掛けですか」という質問を受けました。これに対し、「はい、そうです」と返事したら、一巻の終わり！今の時代なら「一生勤めます」と言うでしょうが、なにせ稲垣良次君は正直者ですので、その正直さゆえに、不採用となってしまうました。

こうして、私は稲垣鉄工へ入社することになったのです。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 12
No.388

本年もありがとうございました

2025年は、鈴木新社長体制の初年度となりました。オーナー家以外の方にイナテックの社長を担っていただくのは、私にとっても大きな挑戦でした。しかし、私の心配をよそに、鈴木新社長はご自身の考えを着実に示し、大いに活躍してくださっています。

特に、鳥取県より、県の産業振興を担う『とっとりリッチサポーター』第一号を託されたことは、イナテックグループにとって大変喜ばしい荣誉です。これを受け鈴木社長は、グループを挙げて鳥取県の産業発展に貢献する決意を示されました。私たちが全面的に協力することで、イナテックグループも共に成長できるものと信じております。

まさしく、これこそがイナテックの企業理念の基盤である、『利他の心』そのものです。

「一方通行ではなく、目の前の相手を一所懸命に思い、その笑顔や成長をイナテック自身の喜びとする」、これがイナテックの考える「利他の心」です。

「イナテック会長」一年生

私自身、会長としての職務を全うできていくについては、甚だ疑問に感じております。「余計な口出しをせず、社長の考えを理解し応援すること」が会長としての使命だと考え努めてきたつもりですが、鈴木社長にはやりにくい思いをさせてしまったのではないかと、申し訳なく思っております。

ただ、強く願うのは、これまでのやり方を「良し」とせず、もっと分かりやすい表現や発表・報告の仕方にしてほしいということです。決して、資料を作成することが目的ではありません。

ません。実行すること、そして失敗を経験することが大切です。失敗したら、すぐに次に挑戦すればいいのです。

世の中が超急速に変化している中で、今までのスピードでは「死」を待つのみです。

私も「大局」からイナテックグループを見ていきます。すぐにアクションを起こせるよう、鈴木社長とは『Face to face, heart to heart』を実行し、常にコミュニケーションを取り続けます。

イナテック理念共学会

今年も、「企業理念を共に学ぶ会（理念共学会）」を開催していただき、誠にありがとうございました。

創業の理念である『和と実行』を引き継ぎ、創立50周年目に『確かな技術と磨かれた心で社会に貢献』という企業理念を制定しました。それから約25年間にわたり、社員の皆

さんには私から一方的に理念をお伝えしてききましたが、昨年、一方通行の伝達には限界があると気づき、反省しました。そこで、理念を学ぶ場として『理念共学会』の実施をお願いしました。

特にこの一年、オーナー家も理念について深く勉強しました。そして理念共学会の場では、鈴木社長を始めとする課長職以上の皆さんで、

- ・「確かな技術」とは
- ・「磨かれた心」とは
- ・「社会に貢献」とは

理念の各項目に対して、一つひとつ丁寧に、何度も議論を重ねていただきました。これほど企業理念を深く掘り下げて実行している会社は、見たことも聞いたこともありません。オーナー家と社員の皆さんが一体となって、イナテックグループの未来を考え、将来の夢を実現するための準備が整ったと確信しております。皆さまの熱心な取り組みに、心から感謝いたします。

来年もよろしく願いたします。

イナテック入社

当時、アイシン様の主要仕入先の後継者は、自社へ入社する前に、アイシン様で修行を積むのが通例となっていました。しかし、当時番頭役であった神谷常務との話し合いの中で、「アイシン様での修行もいいが…。イナテックでの現場実習で、イナテックの製造や生産技術の考え方、営業のやり方を勉強した方が、社員の人たちの気持ちがよく分かり、溶け込みやすいのではないか」という提案をいただきました。

私はこの提案を受け、イナテックへの入社を決めた次第です。

製造現場での実習

入社後、私はまず製造現場での実習に入りました。

当時、稲垣鉄工の主力製品であったブレーキドラムの切削加工ラインにおいて、第一工程を担当しました。この製品は、アイシン高丘様を通じて納品するトヨタ「ハイラックス」用の重要保安部品であり、日野自動車の羽村工場へ毎日直送していました。

このラインは、1個あたり13kgの素材を手でチャッキングする手動ラインで、1直で千個もの重量物を持ち上げるといって、大変な作業を経験しました。

また、夜勤帯で働く社員さんたちと会話を交わし、現場で働く方の気持ちや考え方を学ぶことができました。当時の夜勤現場は時間の流れがゆつくりで、休憩時間に寝過ごしして働いていない人がいたり、ルールも勝手解釈で運用されていたりという状態でした。そんな状況から、「製造現場は大変で、毎日様々なことが起きている」ということも貴重な学びの一つでした。

当時、鈴木課長や山田課長には大変お世話になりました。

工機部門での実習

工機部の実習では、機械、治具、自動搬送機などの製作に携わりました。実習中は、旋盤やボール盤を使って技術を教わりました。中でも、犬塚部長や現場技術が大得意だった岩瀬部長からは、切削理論などの専門的な知識を分かりやすくご指導いただき、大変感謝しております。

そして工機部在籍中に、私は神谷常務から「営業をやれ」との命を受けました。何もわからないままアイシン高丘様に向いた私を、設計の鶴田様や黒柳係長様は「イナテックの若息子が来たから」と迎え入れてくださいました。その時、初めて図面をいただいて受注

できたことは今でも忘れられません。これが仕事の面白みなんだと強く感じました。

もちろん、その後の工程で、社内や外注先の方々が夜遅くまで加工してくださったおかげでアイシン高丘様へ無事に納品できたことも、私にとって大変勉強になりました。

「何もわからなくても一所懸命に取り組む」という気持ちが理解いただけた時の喜びは、また格別なものだと実感しました。

このような貴重な現場実習を、約4年間皆さまにお世話になりながら経験させていただきました。

心から感謝申し上げます。

(注：登場する方の職制名称は当時の名称)

菜根譚後集

一一九

當怒火慾水正騰沸處、明明知得、又明明犯着。知的是誰、犯的又是誰。此處能猛然轉念、邪魔便爲眞君矣。

烈火のような怒りと洪水のような情欲が沸き立ったときに、わが心にはそれとはっきり知っていて、また知っていながらつい犯してしまふ。このとき、そのはっきりと知る者は誰であるのか、また知っていながら犯してしまふものは誰であるのか。ここで忽然として思い返すことができれば、その邪悪な魔性のものは退散して、忽ち良心が現われて来る。